

令和6年度「島根県子どもの生活に関する実態調査」結果 (ヤングケアラー)

～島根県のヤングケアラーの実態について～

令和6年11月

島根県健康福祉部青少年家庭課

1. 県内の状況

(1)令和6年度「島根県子どもの生活に関する実態調査」結果(ヤングケアラー)

■調査目的等

「島根県子どもの生活に関する実態調査」にヤングケアラーに関する設問を設け、ヤングケアラーに関する現状・意識等を把握し、今後の支援の在り方を検討するための基礎資料とする。

■調査対象

島根県内の学校に通学している小学5年生、中学2年生、高校2年生

■調査時期 令和6年5月

■回答率

小学5年生27.8%(送付数5,779人、回答数1,606人)

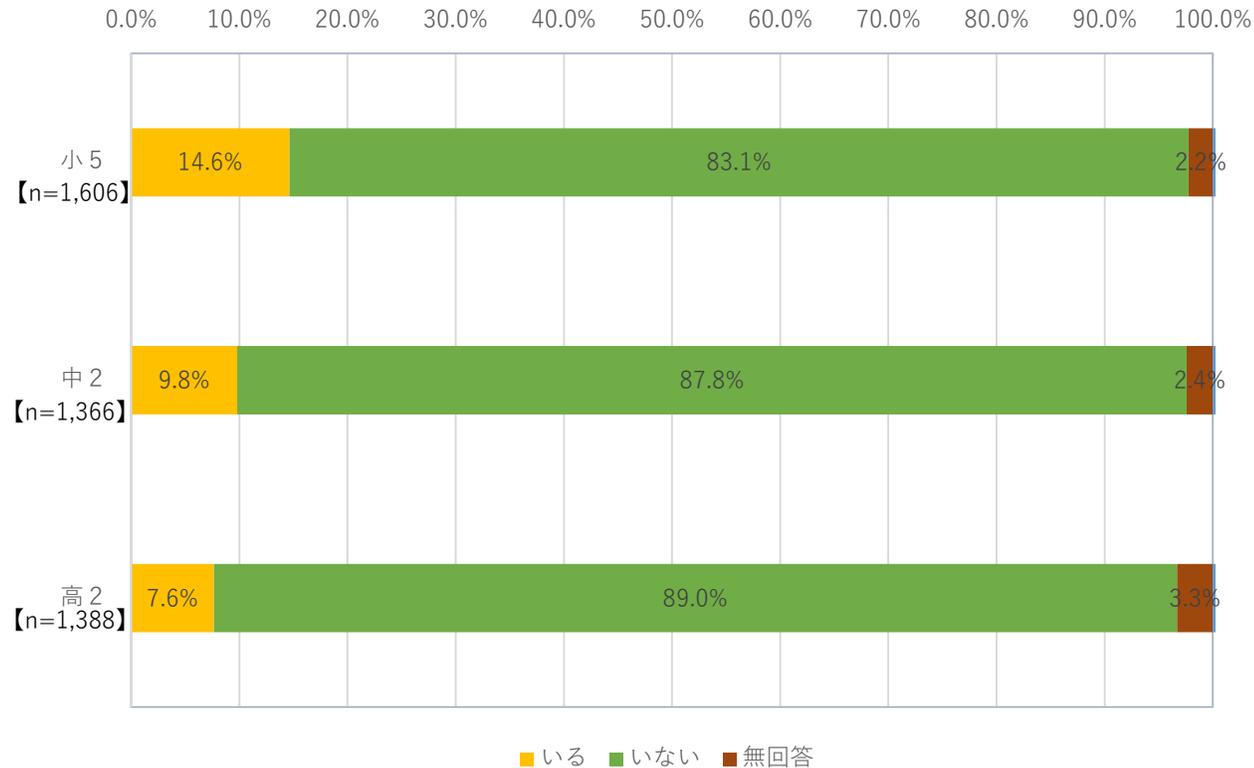
中学2年生23.4%(送付数5,839人、回答数1,366人)

高校2年生22.9%(送付数6,049人、回答数1,388人)

お世話をしている家族の有無

○小・中学生、高校生に世話をしている家族の有無について質問。

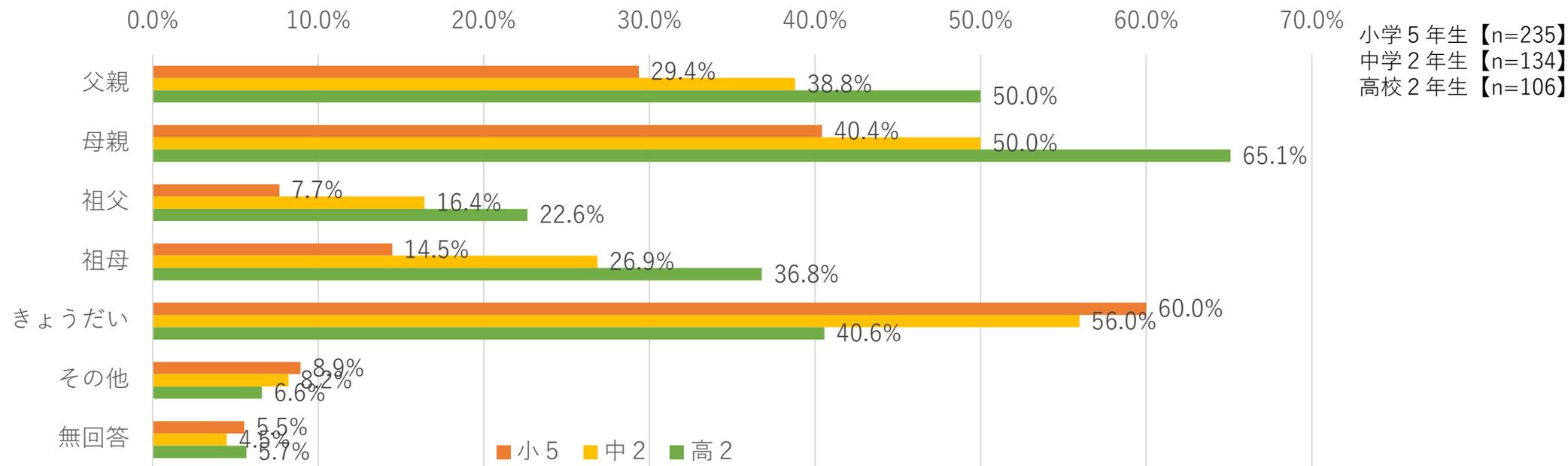
○家族の中にお世話をしている人が、「いる」と答えたのは小学5年生14.6%（235人/1,606人）、中学2年生9.8%（134人/1,366人）、高校2年生7.6%（106人/1,388人）。



	いる		いない		無回答		合計
小学5年生	235	14.6%	1,335	83.1%	36	2.2%	1,606
中学2年生	134	9.8%	1,199	87.8%	33	2.4%	1,366
高校2年生	106	7.6%	1,236	89.0%	46	3.3%	1,388

お世話をしている家族

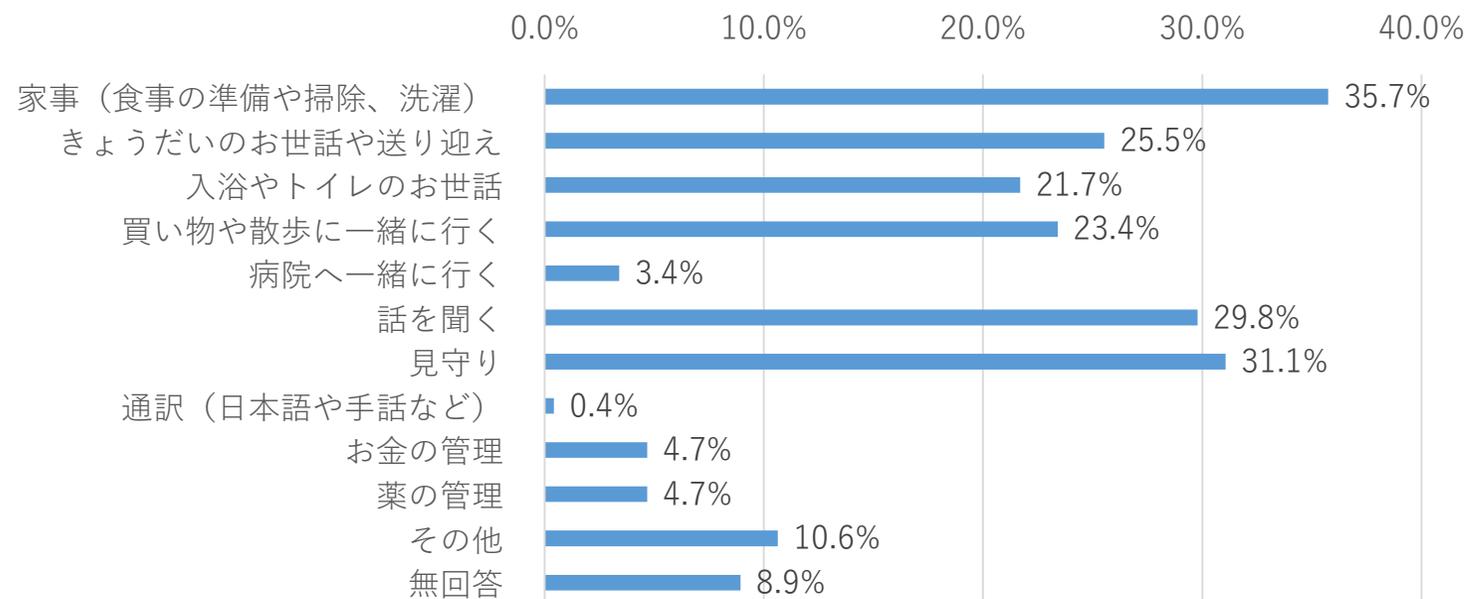
- お世話をしている家族が「いる」と回答した小・中学生、高校生に、世話をしている家族について質問（複数回答）。
- お世話をしている家族は小・中学生では「きょうだい」の割合が最も高く、高校生では「母親」の割合が最も高い。



	父親	母親	祖父	祖母	きょうだい	その他	無回答
小5 (n=235)	69 29.4%	95 40.4%	18 7.7%	34 14.5%	141 60.0%	21 8.9%	13 5.5%
中2 (n=134)	52 38.8%	67 50.0%	22 16.4%	36 26.9%	75 56.0%	11 8.2%	6 4.5%
高2 (n=106)	53 50.0%	69 65.1%	24 22.6%	39 36.8%	43 40.6%	7 6.6%	6 5.7%

お世話の内容（小学5年生）

- お世話をしている家族が「いる」と回答した小学5年生に世話の内容について質問（複数回答）。
- 世話の内容は「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」（35.7%）が最も高い。



小学5年生【n=235】

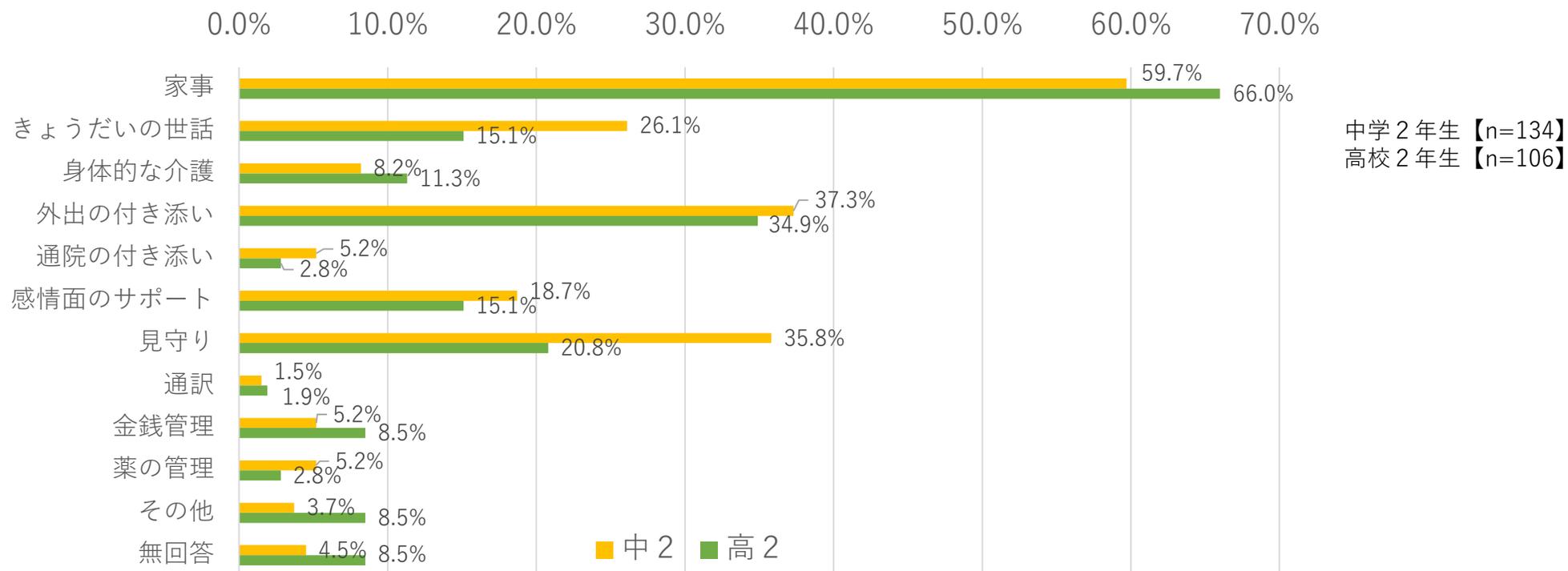
※回答の内容の表現が、中学生、高校生の調査と異なっている。

	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいのお世話や送り迎え	入浴やトイレのお世話	買い物や散歩と一緒にいく	病院へ一緒にいく	話を聞く	見守り	通訳（日本語や手話など）	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
小5 (n=235)	84	60	51	55	8	70	73	1	11	11	25	21
	35.7%	25.5%	21.7%	23.4%	3.4%	29.8%	31.1%	0.4%	4.7%	4.7%	10.6%	8.9%

お世話の内容（中学2年生、高校2年生）

○お世話をしている家族が「いる」と回答した中学生、高校生に世話の内容について質問（複数回答）。

○世話の内容は、いずれも「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が中学2年生59.7%、高校2年生66.0%で最も高い。

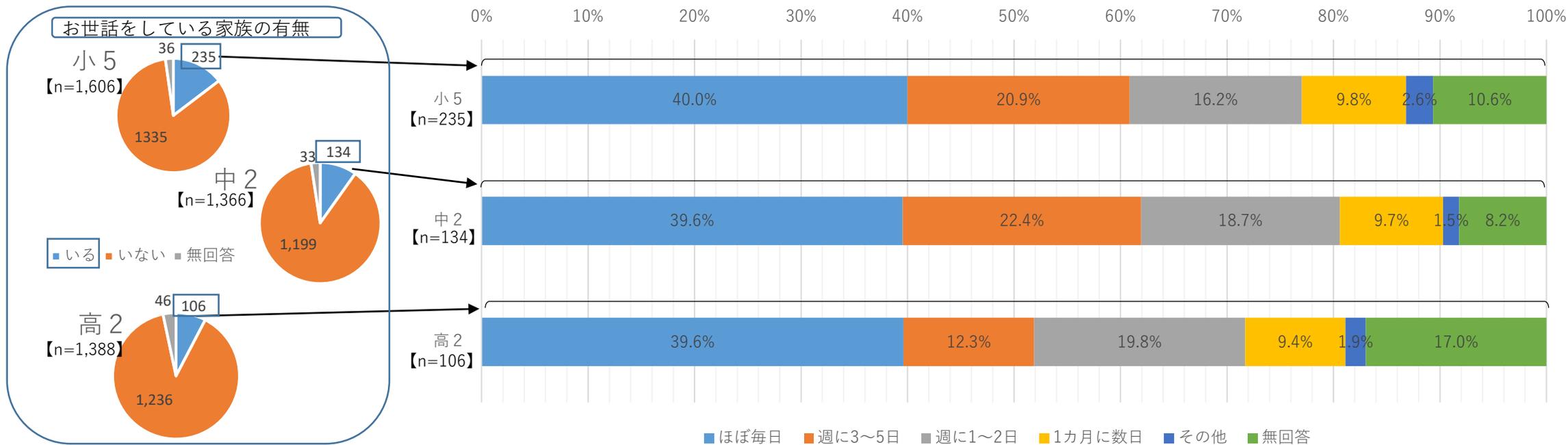


	家事（食事の準備等）	きょうだいの世話	身体的な介護	外出の付き添い	通院の付き添い	感情面のサポート	見守り	通訳	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
中2 (n=134)	80	35	11	50	7	25	48	2	7	7	5	6
	59.7%	26.1%	8.2%	37.3%	5.2%	18.7%	35.8%	1.5%	5.2%	5.2%	3.7%	4.5%
高2 (n=106)	70	16	12	37	3	16	22	2	9	3	9	9
	66.0%	15.1%	11.3%	34.9%	2.8%	15.1%	20.8%	1.9%	8.5%	2.8%	8.5%	8.5%

お世話をしている頻度

○お世話をしている家族が「いる」と回答した小・中学生、高校生に世話に費やす頻度について質問。

○世話をしている頻度は、すべての学年で「ほぼ毎日」が最も高く、小学5年生40.0%、中学2年生39.6%、高校2年生39.6%となっている。



	ほぼ毎日	週に3~5日	週に1~2日	1か月に数日	その他	回答なし	合計
小学5年生	94 40.0%	49 20.9%	38 16.2%	23 9.8%	6 2.6%	25 10.6%	235
中学2年生	53 39.6%	30 22.4%	25 18.7%	13 9.7%	2 1.5%	11 8.2%	134
高校2年生	42 39.6%	13 12.3%	21 19.8%	10 9.4%	2 1.9%	18 17.0%	106

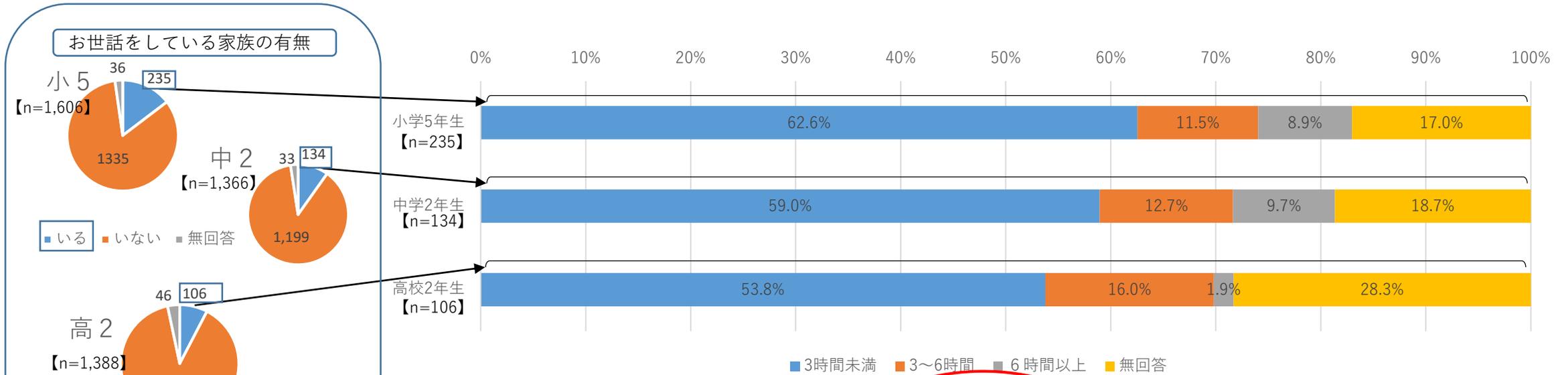
平日1日当たりの世話に費やす時間（日によって違う場合は最長）

○お世話をしている家族がいると回答した小・中学生、高校生に平日1日のうち世話に費やす時間について質問。

（日によって違う場合は、最近1か月の中で一番長かった時間）

○世話に費やす時間はすべての学年で「3時間未満」が最も高く、小学5年生62.6%、中学2年生59.0%、高校2年生53.8。

○いずれの学年でも「6時間以上」世話に費やしている人が2~10%程度いる。（小学5年生で8.9%、中学2年生9.7%、高校2年生1.9%）

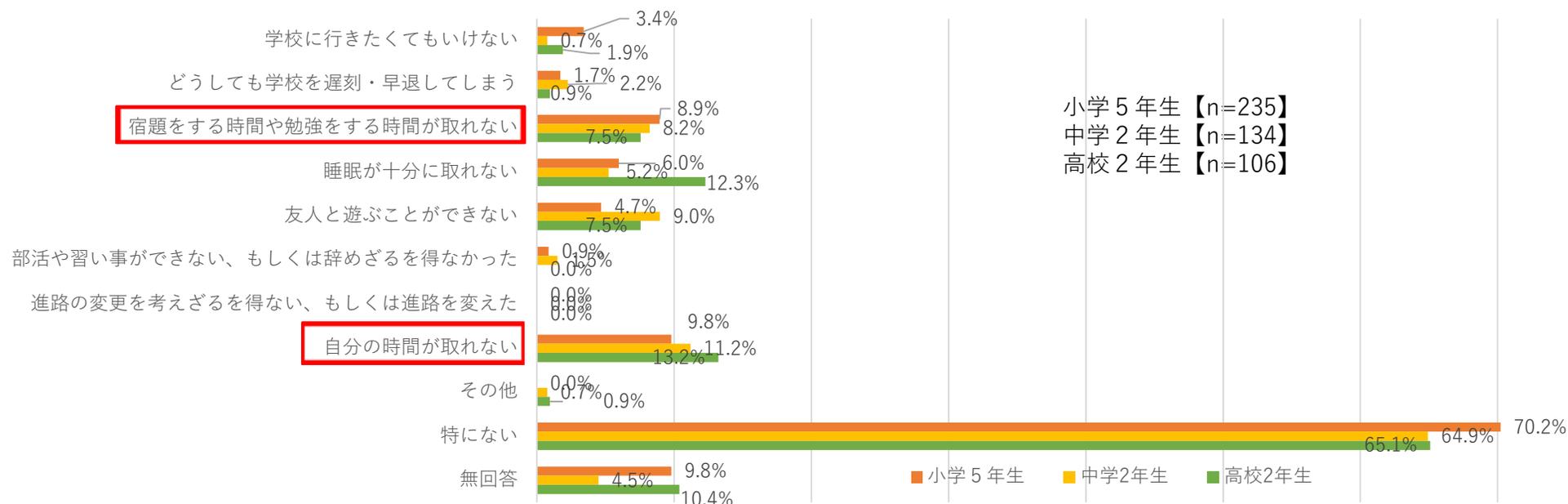


	3時間未満	3~6時間	6時間以上	無回答	合計
小学5年生	147	27	21	40	235
	62.6%	11.5%	8.9%	17.0%	100%
中学2年生	79	17	13	25	134
	59.0%	12.7%	9.7%	18.7%	100%
高校2年生	57	17	2	30	106
	53.8%	16.0%	1.9%	28.3%	100%

お世話をしているために、やりたいけれどできていないこと

○お世話をしている家族がいると回答した小・中学生、高校生にお世話をしているために、やりたいけれどできていないことについて質問（複数回答）。

○いずれの学年でも、「特にない」、「無回答」を除くと「自分の時間が取れない」、「宿題や勉強をする時間が取れない」が高くなっている。



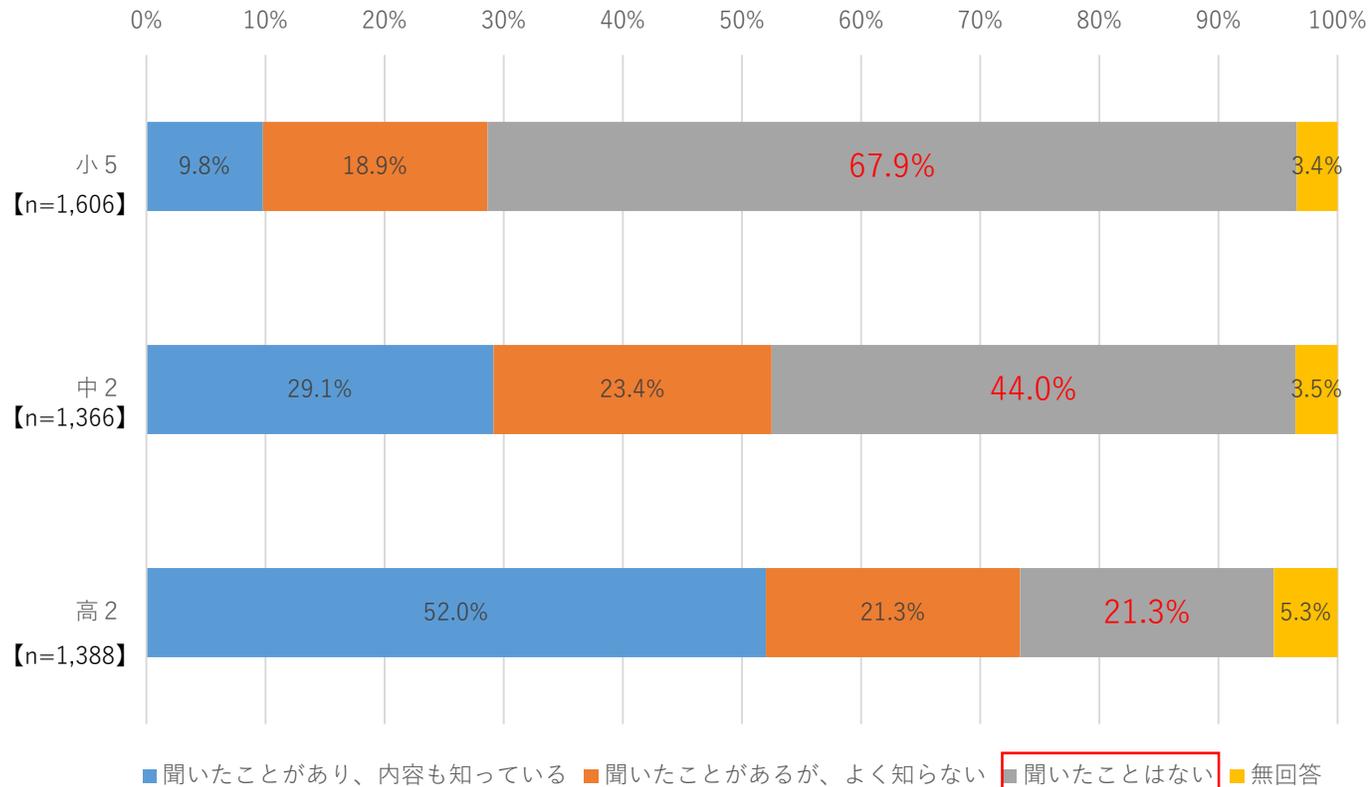
	学校に行きたくてもいけない	どうしても学校を遅刻・早退してしまう	宿題をする時間や勉強をする時間が取れない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった	進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変えた	自分の時間が取れない	その他	特にない	無回答
小5 (n=235)	8人 3.4%	4人 1.7%	21人 8.9%	14人 6.0%	11人 4.7%	2人 0.9%	0人 0.0%	23人 9.8%	0人 0.0%	165人 70.2%	23人 9.8%
中2 (n=134)	1人 0.7%	3人 2.2%	11人 8.2%	7人 5.2%	12人 9.0%	2人 1.5%	0人 0.0%	15人 11.2%	1人 0.7%	87人 64.9%	6人 4.5%
高2 (n=106)	2人 1.9%	1人 0.9%	8人 7.5%	13人 12.3%	8人 7.5%	0人 0.0%	0人 0.0%	14人 13.2%	1人 0.9%	69人 65.1%	11人 10.4%

ヤングケアラーの認知度

○「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあるかについて質問。

○小学校5年生67.9%、中学2年生44.0%、高校2年生21.3%が「ヤングケアラーを聞いたことはない」、と回答しており、学年が低いこどもほど認知度が低い。

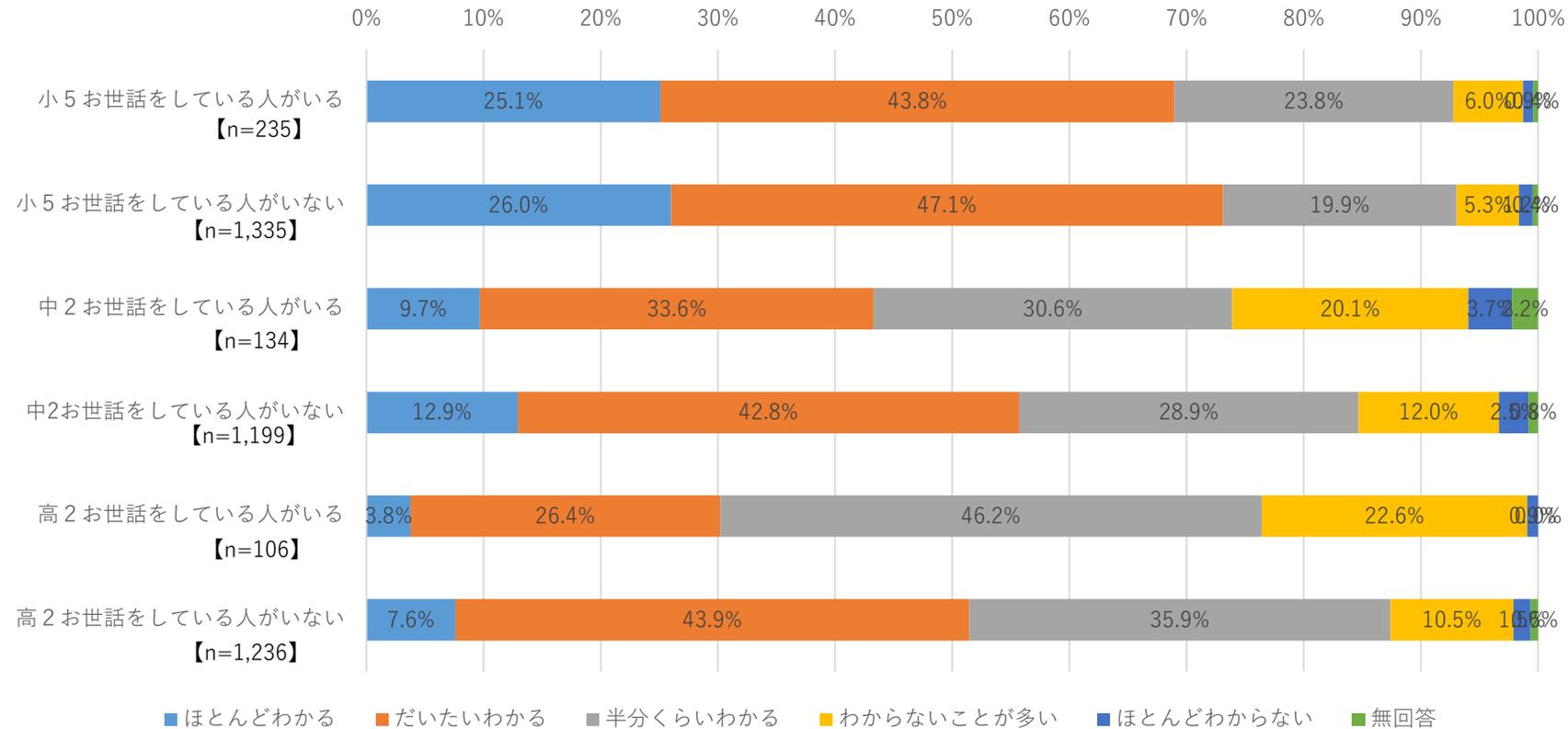
○学年が上がるに従い認知度は高くなっているが、高校2年生でも「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答したのは52.0%で約半数程度に留まっている。



	聞いたことがあり、内容も知っている		聞いたことがあるが、よく知らない		聞いたことはない		回答なし		合計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
小学5年生	157	9.8%	303	18.9%	1,091	67.9%	55	3.4%	1,606
中学2年生	398	29.1%	319	23.4%	601	44.0%	48	3.5%	1,366
高校2年生	722	52.0%	296	21.3%	296	21.3%	74	5.3%	1,388

勉強の理解度

- お世話をしている場合としていない場合では、どの学年でもお世話をしている人が「いる」方が勉強の理解度が低い。
- 学年が上がるほど、勉強の理解度に差がでてきている。



(参考)

	いる	いない	無回答	合計
小5	235 (14.6%)	1,335 (83.1%)	36 (2.2%)	1,606
中2	134 (9.8%)	1,199 (87.8%)	33 (2.4%)	1,366
高2	106 (7.6%)	1,236 (89.0%)	46 (3.3%)	1,388

2. ヤングケアラーの支援で必要なこと

- ①家庭内のことであり、表面化しにくく、周囲が気づきにくい
- ②子どもが、家族のために役立つことにやりがいを持っている場合があり、本人自身が自覚しにくい



- ◎関係者による早期発見
- ◎子どもや家族の心情に配慮しながら、適切な支援に繋げることが大切

3. 調査結果を受けた支援の方向性

調査結果から見てきた現状と課題	支援の方向性
<p>①子どもが担っているケアには、家事のほか、医療・介護にかかる内容もある</p> <p>②ケアを行う子どもの中には、世話に費やす時間が長時間に亘っている子どもがいる</p>	<p>支援を必要としている子どもを把握し、必要な支援に繋げていく体制づくりが必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村でのヤングケアラー把握のための調査促進 ・市町村相談窓口や支援の調整役を担うコーディネーターの設置を推進 ・県と市町村それぞれにおいて、福祉・介護・医療・教育分野での連携による支援体制づくりの構築（市町村への働きかけ） ・市町村が行う家庭訪問支援事業（家事支援）の推進
<p>③本人(子ども)や周囲への「ヤングケアラー」についての理解や認知が十分でない</p>	<p>「ヤングケアラー」の正しい理解の促進と周知啓発が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報啓発活動（新聞、ポスター、チラシ配布等） ・民生委員・児童委員等への出前講座の実施 ・県民向けの講演会、行政・教員向け研修会の開催
<p>④本人(子ども)が気軽に相談できる場が限られている</p>	<p>ケアを行う子どもの気持ちや状況は様々であるため、困ったときに安心して相談できる環境やサポート体制づくりが必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインサロンの開設（悩みごと相談やレスパイトの場を提供） ・市町村が実施する居場所事業への支援